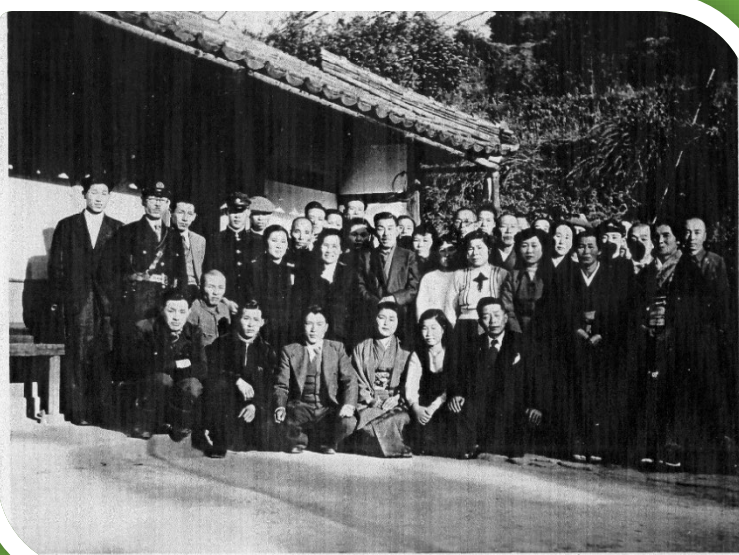


ブラジル移住者の父 松原安太郎生誕130周年記念 企画展

移民と和歌山2022 ブラジル移住者の軌跡をたどって



昭和27年三栖にて 松原安太郎氏（中央・背広姿）
（個人蔵）

2022年はみなべ町出身の松原安太郎氏の生誕130周年にあたります。松原は太平洋戦争後、ブラジルへの日本人移民の再開に尽力した一人です。彼の功績により、1953年、和歌山県から戦後のブラジル移住の第一陣として、22家族112人が松原移民村として、マツト・グロッソ州（現在南マツト・グロッソ州）のドラーダス植民地へ入殖しました。松原生誕130周年の機に、和歌山県からブラジルへの移住の歴史に光をあて、過去から現在へと軌跡をたどります。

【日程】11月8日（火）～12月23日（金）

【会場】紀州経済史文化史研究所展示室

※西5号館3階（学術情報センター図書館）

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学

【休室日】土日祝日および図書館休館日

（11月18日、21日）

【内容】ブラジル移住に関するパネルや

書籍などの資料を展示

※入場無料



松原移住地コーヒー畑にて（個人蔵）

主催：和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 紀州経済史文化史研究所

共催：和歌山県中南米交流協会

後援：（公財）和歌山県国際交流協会、わかやま南北アメリカ協会

協力：JICA横浜 海外移住資料館、和歌山市民図書館移民資料室

問合せ先：紀州経済史文化史研究所 Tel.073-457-7891

email:kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp